



糸

巻

虎

下

中村俊定文庫  
 文庫 18  
 701  
 1







第一

選集入大意を述



昔は鬼神をみるもまじくもまじく  
まじくもまじくは沼止の毛行潦乃  
あつらひて差きて共すし雅り  
行葦河駒も風も多藝も頻  
あつらひて思信をうらむし清いおと



一 信陽の伯先  
系年を殘す  
其を先ず  
一 信陽の伯先  
一 信陽の伯先  
一 信陽の伯先

一

自朝を以て辭

正しくしうの  
唐の  
馬  
一



志うる也今也衣  
錦好きき集月の  
好の衣也し持  
おのりあはる  
おのりあはる  
おのりあはる  
おのりあはる  
おのりあはる  
おのりあはる

おのりあはる  
おのりあはる  
おのりあはる  
おのりあはる

おのりあはる  
おのりあはる



ら一冊のなまあつゝのふも摺りあふ  
月ハ此も此のふもあつゝのふもあつゝ  
あつゝのふもあつゝのふもあつゝのふもあつゝ  
あつゝのふもあつゝのふもあつゝのふもあつゝ  
あつゝのふもあつゝのふもあつゝのふもあつゝ

人老の巨艦よさあつゝのふもあつゝのふもあつゝ  
鶴の鳥よさあつゝのふもあつゝのふもあつゝのふもあつゝ

あつゝのふもあつゝのふもあつゝのふもあつゝ  
あつゝのふもあつゝのふもあつゝのふもあつゝ  
あつゝのふもあつゝのふもあつゝのふもあつゝ











あつたてのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひ

朝暁先

あつたてのうらなひのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

鳥鳴

あつたてのうらなひ

一之

上ノ三

あつたてのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひ

伯先 之 先 之 先 之 先 之 先 之 先







新敵の種をくちぎるを 先  
 後 織家を破くを 困  
 争 敵より勝つを 之  
 あり 白旗の降を 困  
 此 降参りたるを 先  
 此 降参りたるを 之

上ノ又

此 降参りたるを

此 降参りたるを

此 降参りたるを 士貞  
 此 降参りたるを 友志  
 此 降参りたるを 友松  
 此 降参りたるを 友英  
 此 降参りたるを 山鼻  
 此 降参りたるを 日登  
 此 降参りたるを 岩登



人の心はまを人の心はま  
種はまはまの心はまはま  
和よはまはまはまの心  
心はまの心はまはまはま  
書のはまはまはまはま  
種はまはまはまはまはま  
夜啼はまはまはまはま  
後まはまはまはまはま  
心はまはまはまはまはま

山 采  
米 山  
真 志  
英 采  
阜 采  
峯 采  
岩 采

人の心はまを人の心はま  
種はまはまの心はまはま  
和よはまはまはまの心  
心はまの心はまはまはま  
書のはまはまはまはま  
種はまはまはまはまはま  
夜啼はまはまはまはま  
後まはまはまはまはま  
心はまはまはまはまはま

山 采  
米 山  
真 志  
英 采  
阜 采  
峯 采  
岩 采



春の日の影ふに月あつく  
 枝山よまじしむい何く  
 春の日の影ふに月あつく  
 枝山よまじしむい何く  
 春の日の影ふに月あつく  
 枝山よまじしむい何く  
 春の日の影ふに月あつく  
 枝山よまじしむい何く  
 春の日の影ふに月あつく  
 枝山よまじしむい何く

泉 山 貞 志 嵐 英 阜 峯 翠

春の日の影ふに月あつく  
 枝山よまじしむい何く

泉

春の日の影ふに月あつく

春の日の影ふに月あつく

春の日の影ふに月あつく

春の日の影ふに月あつく  
 枝山よまじしむい何く

雲帯

春の日の影ふに月あつく  
 枝山よまじしむい何く

如毛

春の日の影ふに月あつく  
 枝山よまじしむい何く

又下



名貴やく厚の秋ともらむる  
 追まき一舞のつむぎあのみ  
 折くハハきかを祝く秋の意  
 名よまののくきりの節も  
 志まのきもあ房の役もはの音  
 ろくあはきもあへきあはき  
 縁はあはきもはあはきあはき  
 帯はあはきもあはきあはき  
 帯はあはきもあはきあはき

夢二  
 三札  
 玉馬  
 毛  
 帯  
 二  
 下  
 馬  
 帯

一のあはきもあはきあはき  
 若きあはきもあはきあはき  
 表のあはきもあはきあはき  
 備え機のもあはきあはき  
 一のあはきもあはきあはき  
 長あはきもあはきあはきの伸  
 一のあはきもあはきあはき  
 十府のあはきもあはきあはき  
 一のあはきもあはきあはき

毛  
 札  
 馬  
 二  
 帯  
 二  
 毛  
 札



獨の野の草はくしくも雲の如  
き霧の如くしと名はばらばら  
はらばらとあはれし草よ人ぞ  
う川の山辺よ夏草の如く  
もえはれよ草は息しとてあはれ  
し草の鳥の如く 霧の如く  
うあはれし草はくしくも雲の如  
く霧の如くしと名はばらばら  
はらばらとあはれし草よ人ぞ

馬 左 帯 毛 二 馬 札 下 左

上ノ九

あふくまみくの本後くはもあ  
まふくまみくの本後くはもあ  
あふくまみくの本後くはもあ  
あふくまみくの本後くはもあ  
あふくまみくの本後くはもあ  
あふくまみくの本後くはもあ  
あふくまみくの本後くはもあ  
あふくまみくの本後くはもあ  
あふくまみくの本後くはもあ  
あふくまみくの本後くはもあ

帯 毛 二 馬 草

おと田草

と平の草はくしくも雲の如

らん 霧の如く



行も〜〜〜の海〜神の使  
 體留よ杉の白ひの夕葉まじり  
 き〜〜〜のうら張の月  
 房の〜〜〜みせうの〜〜〜も  
 菊の〜〜〜のふに〜〜〜も  
 大和路戸にの境のふ〜〜〜く  
 曉の〜〜〜人加駕の勢ふきに  
 もの〜〜〜と〜〜〜念のふ  
 物よ〜〜〜ぬ面〜〜〜ら割  
 菘 ん 九 鼻 帝 言 牝 厚 文 兆 凡 化 柳 菘 菘 ん

行狩らむ〜〜〜  
 帝 福の 菘よむのふ 菘 東  
 行〜〜〜  
 岩の〜〜〜に〜〜〜  
 菊の〜〜〜の〜〜〜  
 房の〜〜〜  
 大和路〜〜〜  
 曉の〜〜〜  
 もの〜〜〜  
 物よ〜〜〜  
 菘 化 菘 九 鼻 言 厚 兆 化



夫の爲るにたゞしき事  
 夕顔を佛よほすぬき舟の心え  
 馬のぬきやく煙いふ言も  
 新玉に回しものくふ龍よさら  
 りんきふよふふあついのいふあ  
 極のらのききぬのを殺せとり  
 ついもききき痛のききき  
 しんききききききききき  
 こしききききききききき

言 辱 北 化 花 九 卑 言 辱

上十一

乙の月十日あきとえ時あきと  
 鷲の雛合にサ子あきと  
 降るる屋ころもたふ秋信年  
 ふしあきのあきの信目には  
 くののらも敷のあきと  
 あきもあきとあきとあきと  
 くのあきのあきとあきと  
 そのあきのあきのあきと

卑 言 辱 北 化 花 九 卑

あきとあきとあきと



秋の夜を思ふ

おのづから思ふ

葉落しに思ふの  
葉の秋も色も  
浮くものも  
長空の夜を  
思ふ

三  
杉羽  
南柳  
暮  
残  
圭

上十二

思ふの  
志の  
神の  
志の  
思ふの  
月  
葉  
暮  
思ふの

羽  
柳  
弓  
圭  
羽  
柳  
弓  
圭



蝶の舞のあはれをなげくも  
田端のちねのうらみも  
はらばらにやうらなれぬ  
うらなれぬも西の海も  
うらなれぬも西の海も  
うらなれぬも西の海も  
うらなれぬも西の海も  
うらなれぬも西の海も  
うらなれぬも西の海も  
うらなれぬも西の海も

弓 柳 羽 圭 弓 柳 羽 圭

上十三

ものたもいぬか  
ちのねよらるる  
ちのねよらるる  
ちのねよらるる  
ちのねよらるる  
ちのねよらるる  
ちのねよらるる  
ちのねよらるる  
ちのねよらるる  
ちのねよらるる  
ちのねよらるる

弓 柳 羽 圭 弓 柳 羽 圭







たもふは海産にふも秋の夜  
遠き舟の影燈をくも波の音  
年暮夜に馬の音をきくは  
ひと可も此よも世ふまの空  
家こころのほろおのつづを  
ひきよめたに女こころの命 悲  
只國のこころのふるを夜  
松風のこころのこころの半  
夏もあつ——やあつたもこ

馬 塚 羽 夏 羽 馬 塚

上  
下

うらやみのふりにむし人の夏  
まもも世にふもあつたの  
ふもあつたにふもあつたの  
会人のふもあつたの  
ふもあつたのふもあつたの  
ふもあつたのふもあつたの  
ふもあつたのふもあつたの  
ふもあつたのふもあつたの  
ふもあつたのふもあつたの  
ふもあつたのふもあつたの  
ふもあつたのふもあつたの  
ふもあつたのふもあつたの

羽 杖 馬 塚 羽 夏 羽 杖



ちのつとむらさきとらまのせくら  
 ひまのぬもはらむしとまのまよと  
 帰しつとまはこゝの家  
 けのぬのさしとまはつとまのまよ  
 よせのぬよとまはつとまのまよ

お 下へおまかせ

明 友 為 明 羽

おのめ

とらまのぬとらまのぬとらまのぬ

上へおまかせ

とらまのぬとらまのぬとらまのぬ  
 表の色つとまのぬとらまのぬ  
 とらまのぬとらまのぬとらまのぬ  
 海堂のぬとらまのぬとらまのぬ  
 人のぬとらまのぬとらまのぬ  
 とらまのぬとらまのぬとらまのぬ  
 とらまのぬとらまのぬとらまのぬ  
 とらまのぬとらまのぬとらまのぬ  
 とらまのぬとらまのぬとらまのぬ

兼二 知是 音我 孝三 梅好 多泉 是 二 三



交響の中流をゆく心流の  
 一より一に流す 雲霧の宮  
 月影を踏み着く せふ月の流  
 流の可くゆわらぬまに輝  
 光を流す 流の 流  
 流よと流す流す流す流す  
 流す流す流す流す流す流す  
 流す流す流す流す流す流す

我 好 二 流 三 流

水 坂田

流す流す流す流す流す流す

月一を流す一を流す一を流す  
 天の代のもも流す流す流す  
 海を流す流す流す流す流す  
 流す流す流す流す流す流す  
 流す流す流す流す流す流す  
 流す流す流す流す流す流す  
 流す流す流す流す流す流す

流六 流易 流好 流流 流尚 流如 流月



いまきしよりの弦を  
 易  
 多生流離の珍ふ板多し  
 六  
 多生の多き 海を  
 花  
 うまへのくくくくくくくくくく  
 月  
 狂るるるるるるるるるる  
 月  
 何きく一月の狂人のきり  
 柏  
 貴ハ女やあハハハハハハハハハ  
 六  
 糸根山赤坊坊坊坊坊坊坊坊坊坊  
 易  
 字よるるるるるるるるるる  
 月

上十八

多生流離の珍ふ板多し  
 月  
 多生の多き 海を  
 花  
 うまへのくくくくくくくくくく  
 月  
 狂るるるるるるるるるる  
 月  
 何きく一月の狂人のきり  
 柏  
 貴ハ女やあハハハハハハハハハ  
 六  
 糸根山赤坊坊坊坊坊坊坊坊坊坊  
 易  
 字よるるるるるるるるるる  
 月

六 中澤を

名月および

多生の多き 海を  
 月  
 狂るるるるるるるるるる  
 月  
 何きく一月の狂人のきり  
 柏  
 貴ハ女やあハハハハハハハハハ  
 六  
 糸根山赤坊坊坊坊坊坊坊坊坊坊  
 易  
 字よるるるるるるるるるる  
 月



りとせいの禁にさへあはれ  
 苗しき時めあはれみにな  
 家の戸の素きにこころあはれ  
 浮路の道もも日あはれ  
 人あはれあはれあはれあはれ  
 眉のけもあはれあはれあはれ  
 又平のうめあはれあはれあはれ  
 さああはれあはれあはれあはれ  
 月あはれあはれあはれあはれ

上十九

ねより終ハ、衆の尻華  
 矢のこせくとくしあはれあはれ  
 いらに白髪を惜むあはれ  
 白髪をさよあはれあはれあはれ  
 かねをさよあはれあはれあはれ

おちあはれ

ねのこめあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

山 笑 山 笑 山 笑 山 笑 山 笑 山 笑











多らむより其の

志ふ日にあつて

名月ありて一處のみのむし 音三

時常の庭を彼の松平より 帰童

小松よりありて松乃戸の口 多智

石井の茶室よりありて 待務

うらうらむきお母のこゝろを みる

近江路にゆくき山をよみて 尋常

上ノ世二

うらうらむきありて十月 旦く

赤松ありて松液をよみて 実車

海の心層をよみて 棟茶

お母の心層をよみて ちや

於虫の啼く庭の宮城に 念毛

お母の心層をよみて 健和

うらうらむきありて 神言

多らむより其のありて 雄浦

多らむより其のありて 浩和















是——くまよ馬のき騰——と  
 州賀  
 松風  
 里果  
 蕨詠  
 小舟  
 吟風  
 きく  
 さき

上、廿六

をきつ軍と送家ひと——  
 文雅  
 みる物留物のかしこむらあゆみ  
 耕鋤  
 斜——のり——のり——  
 百之  
 枝葉  
 子泉  
 以舟  
 慈柳  
 昔言  
 梅枝



急湯 尾  
 梅布 尾  
 以曉 尾  
 枝菜 尾  
 子泉 尾  
 池月 尾  
 蕪柳 尾  
 楓子 尾

お江戸のま

上廿七

るのる

海草の小きる 尾

角浪 尾  
 小渡 尾  
 角浪 尾  
 小渡 尾  
 角浪 尾  
 小渡 尾  
 角浪 尾  
 小渡 尾  
 角浪 尾  
 小渡 尾



かしらぬかたふかたのまじりぬは  
 急山らつてふしきしり啼  
 旅糸妹とらうのきしぬえ  
 垣の外らるる遠近のしき  
 ちねお鏡の宿乃知月秋  
 秋をあらはは鐘乃宮まはる  
 海よりう浪思の綴り思念なく  
 けし商人のほ金とふつ  
 急よ花翹あふはけりやう

後 浪 後 浪 後 浪 後 浪 後

上ノ廿八

舞よふ舞きり、つらき者よふ舞  
 三條のちのよあのみま、まのちのち  
 何ふ何まはるかに、其華もこえ  
 夢よこま、目もまねの傳はるる  
 誰か親あま、つらおあのか  
 とあま、つらま、まもねん  
 ちか、つら、つら、つら、つら  
 宿よよ、つら、つら、つら、つら  
 清代よ、め、め、め、め、め、め、め

後 浪 後 浪 後 浪 後 浪 後



おもひく橋あはれし日の歌よ  
 以由お秋し川ふもも筑波も  
 常縁くハ何ぞ以は後ぞんゆあ  
 原よハ翅川今し川 恋  
 懐積たす夕まららとこも能ま  
 と原あはれしをほつてまも家  
 鳥籠の軒風ほほほほあはれ  
 春の思やゆく新宮の入  
 家ちの思ふとく思ふよかたは  
 後 浪 後 浪 後 浪 後 浪

上廿九

あはれしの中よとるも浦公英 浪  
 古武書流を

後の舟

おもひの舟の思ふも思ふも  
 おもひの舟の思ふも思ふも  
 杖よ思ふも思ふも思ふも  
 おもひの舟の思ふも思ふも  
 おもひの舟の思ふも思ふも  
 おもひの舟の思ふも思ふも  
 浪 浪 浪 浪 浪 浪



Handwritten cursive text on the right page, consisting of seven lines of characters.

Handwritten cursive text on the left page, consisting of seven lines of characters.







邦彦  
 其水  
 歌以  
 琴楓  
 車校  
 梅門  
 白水  
 信宣  
 之笑

上ノ半  
三

之紅  
 祇臣  
 二石  
 徐雍  
 徐牛  
 款笛  
 龜鍊  
 未成  
 粉蒙







鳥の鳴き声

鳥の鳴き声

鳥の鳴き声

双鳥

鳥の鳴き声

長翠

鳥の鳴き声

鳥

鳥の鳴き声

鳥

鳥の鳴き声

鳥

鳥の鳴き声

鳥

鳥の鳴き声

鳥

入佛の鳥の鳴き声

鳥

鳥の鳴き声

鳥

鳥の鳴き声

鳥

鳥の鳴き声

鳥

鳥の鳴き声

鳥

鳥の鳴き声

鳥

鳥の鳴き声

鳥

鳥の鳴き声

鳥

鳥の鳴き声

鳥



あをばさるる 宿ま — 宿ま  
大いよるる 宿まもま — 宿ま  
い — 宿まもま — 宿ま  
奴をばさるる 宿ま — 宿ま  
佛の宿まもま — 宿ま  
娑の宿まもま — 宿ま  
吃の宿まもま — 宿ま  
宿ま — 宿まもま — 宿ま  
宿ま — 宿まもま — 宿ま

鳥、翠鳥、翠鳥、鳥、翠鳥、鳥

上ノ廿五

山伏の宿まもま — 宿ま  
宿ま — 宿まもま — 宿ま  
宿ま — 宿まもま — 宿ま  
宿ま — 宿まもま — 宿ま  
宿ま — 宿まもま — 宿ま  
宿ま — 宿まもま — 宿ま  
宿ま — 宿まもま — 宿ま  
宿ま — 宿まもま — 宿ま  
宿ま — 宿まもま — 宿ま  
宿ま — 宿まもま — 宿ま

鳥、翠鳥、翠鳥、鳥、翠鳥、鳥







あゝ屋の由はよ風あふ屋の戸  
こゝろもまじりか大 神  
眉川の横よあのみまゝ  
水にたるとふるのまゝ  
花のまの程も平流よまゝ  
はの 高人のあゝ神  
有馬の屋を氣に流の程  
まゝのまゝのまゝのまゝ  
まゝのまゝのまゝのまゝ

水 曉 不 水 曉 不 水 曉 不

上、廿七

あゝよふふん下戸の汲  
うまのまのまのまのま  
家のまのまのまのま  
けのまのまのまのま  
くらく松よまのまのま  
園のまのまのまのま  
流よまのまのまのま  
まのまのまのまのま  
まのまのまのまのま  
まのまのまのまのま

水 曉 不 水 曉 不 水 曉 不



~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

水

睡

人

学

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

福二

孝彦

哇眼

佛二

北水

二

彦







俊らも牛の背よんる東の鼓  
 所木の赤くも事のはしら  
 浪のしんを武よるの神楽の  
 ちかちか人にならぬもよる  
 松う枝のたけのこもよる  
 ぬくもあつぬ傘もよる  
 うるぬのきもよる浦もよる  
 舟のたけよるもよるぬく

夏島  
 夏花  
 東市  
 夏船  
 松枝  
 東北  
 冬葉  
 温泉

大上も鼓よる一巡

上 134

人

海のうらみぬのくめ  
 るのりのむにぬくもよる  
 波のうらみぬのくめ  
 ぬくもあつぬ傘もよる  
 うるぬのきもよる浦もよる  
 舟のたけよるもよるぬく

百雨  
 子之  
 冬風  
 夏花  
 夏島  
 夏船



志のひてたはず神よちもあま  
 香の銘之人らうらわは物さう  
 ほくしにらうま山をんをよそ  
 るましくと空の輝うかふ松原  
 と神をも驚く許はもあらん  
 藤の影もわらう影も回し秋  
 くら月しきの東大寺あ  
 原海よ泳めのまきもまらふし  
 をうほ優の 暮ははあふんお  
 夫 雨 之 夫 心 之 雨 風 夫

上ノ四十一

ねほもら〜物もなほふの友  
 争しくゆ〜事の秋のを  
 雨 風

お下もなほあま

翁の徳も

人のもほの秋のひし時  
 友の宿月のあふれはあふ  
 翁のまは〜はあふ 禪、うら  
 眉 尺  
 如 帛  
 石 塘







一、海軍の発展  
 二、海軍の発展  
 三、海軍の発展  
 四、海軍の発展  
 五、海軍の発展  
 六、海軍の発展  
 七、海軍の発展  
 八、海軍の発展  
 九、海軍の発展  
 十、海軍の発展

上ノ四十三

一、海軍の発展  
 二、海軍の発展  
 三、海軍の発展  
 四、海軍の発展  
 五、海軍の発展  
 六、海軍の発展  
 七、海軍の発展  
 八、海軍の発展  
 九、海軍の発展  
 十、海軍の発展

お下送首の秘訣



月

ふいおちもまたしつりも秋の月

之人

曉星

夕月おとさくの縁をそとる

夕月

暮外

夕月おとさくの縁をそとる

夕月

夕外

夕月おとさくの縁をそとる

夕月

夕外

夕月おとさくの縁をそとる

夕月

夕外

夕月おとさくの縁をそとる

夕月

夕外



多目山人の... 白神  
 日... 位... 飛  
 ... 如...  
 ... 云... 百雅

...

... 白...  
 ... 行... 白...  
 ... 行... 白...

... 里...  
 ... 杜...  
 ... 江... 朱...

...

... 海... 白...  
 ... 仙... 河...  
 ... 仙... 松...  
 ... 春...



福書子流行を起る玉子も終出羽終日 子明

七夕 七川をぬ

徳さし多う終る若毛早うの秋文行成 和卿

早うの長流の竹と遊ばし下徳泉の少年 兼之

七夕よ何の遊ばしおの心せ仙臺 東毛

七川をぬる玉子も終るの鳥の心築紫 莫二

森 音ふ 音ふ

七川をぬる玉子も終るの鳥の心行海 兼之  
早うの長流の竹と遊ばし下徳泉の少年 兼之  
七夕よ何の遊ばしおの心せ仙臺 東毛  
七川をぬる玉子も終るの鳥の心築紫 莫二

七川をぬる玉子も終る

七川をぬる玉子も終るの鳥の心仙人 兼之  
早うの長流の竹と遊ばし下徳泉の少年 兼之  
七夕よ何の遊ばしおの心せ仙臺 東毛  
七川をぬる玉子も終るの鳥の心築紫 莫二



乃啼々啼々く空く 名 院 南谷 源 俊  
そなたのさくく 名 院 武家 文 会

東 秋の勢

東 秋の勢 上三子降 海 兵  
海 兵 信中降 乃 院  
乃 院 七人 盛 如  
盛 如 信中降 海 水  
海 水 石中三子 東 也  
秋の勢 信中降 乃 院

東 秋の勢

東 秋の勢 池田 家 創  
家 創 石中三子 乃 院  
乃 院 武家 文 会  
文 会 七人 海 兵  
海 兵 信中降 乃 院  
乃 院 仙屋 風 車  
風 車



暖よ鳥のゆふはをを従、の申 白神 景北

川秋 〰〰〰

りあきもいしねとあつめ志の子字 奥平 冥く  
せく秋はせぬよ白ふ下書系 白神 詩躬  
秋のいのちにくるを美しき 名倉 秋味  
秋の風の吹くもをの秋はの申 白七子 忍神  
静らあくつて木橋の白ふのそふ 白神 如黛  
下校の川を渡るくちふ柳 白屋 沈存

急らあきしに秋空よあつめ志の毫 信中松平 山海  
くくくあつめよ月やあつめふ下ね系 海 和風  
い〜もあつめしに秋のくき 文晴  
月らあつめしに秋のくき 梅明  
右道は柳のあつめの柳の多ね 上もそね 白英  
秋のくきあつめの白ふ〜海辺の申 白八王子 三江  
心うらやまふ柳の秋のくき 文河  
夕日あつめしに秋のくき 心 心遠  
馬場あつめしに秋のくき 善晴



お

上もさ日  
 ちのつれ— 越中よき里の角田川  
 海之 式八ノヨリ  
 らい— 越中よき里の角田川 三ノ川  
 眉尺 小徳吉が扱  
 桑二 信中飯田  
 文志 海方  
 揚井 上中田  
 灰のつれ— 越中よき里の角田川

上五十九

ぼくらのつれ— 越中よき里の角田川 は 柳  
 人 三人  
 児童

お

今能 名を名  
 柳央 信飯田  
 知是  
 音哉







おとせ ありあけ

おとせ ありあけ 京 軍吏  
鴨の舞能成へ向う 伝言 云い傳ふ 涼化  
蕭の根とつばね 宮下 其れ  
松の葉のほしほ 信甲後 里秀  
追ふるのふた 上毛吉澤 魚棚

とせのくま

園ちハ圃のち 式根戸 四河  
はまのふ ス、キ 穂尺  
梅もも 江那 皇人  
沖垣お 三人 柏樹

おとせ ありあけ

櫻の丘 お中後 智毛  
松のふ お中後 友友  
十月の柿 下総吉澤 冬花



人を念うはも成りて人の名を  
 いよしたる一好むものなり  
 凍るるを治するは人の心  
 夕さるるものしるるも冬  
 こころのちかぬものなり  
 秋神よせたるものなり  
 嵐はよ移るるものなり  
 世にものしるるものなり  
 子一好むるものなり

亡人 宗澄  
信中法方 扇志  
江那 縣市  
下志原 丸丈  
信中大念 席杖  
亡人 龍室  
 宗孝  
 本城  
 柏樹

上三三二

心

心くして心なるものなり  
 心の名人なるものなり  
 こころの心なるものなり  
 心の心なるものなり  
 心の心なるものなり  
 心の心なるものなり  
 心の心なるものなり  
 心の心なるものなり

宗 宗  
南 南  
信 信  
何 何  
本 本  
巨 巨  
桐 桐



むのあーきしんらうらう月七人 櫻良  
 を、流らしけの流さぬうさ、 百明  
 人を夕くまら後と影もあう、 西奴  
 桜遠くまのいふらるまの月、 女 些明  
 花も、結さるあ、後、山、海、のさ、 信申 文捕  
 山川をさよりしと、橋、依、長、 式口地 物築  
 草も、か人ま、山、のさ、く、の、申、 拜 橋 晚  
 花、さ、い、は、ま、の、い、お、さ、さ、さ、さ、 上 白 菊  
 花、の、心、ま、さ、さ、さ、さ、さ、さ、 中 田 菊 園

上ノ五十三

花のまよる月あ、物、さ、け  
真白石 乙二

続 花 春の月

花、さ、る、ま、さ、さ、さ、さ、さ、さ、 信 花 花  
 花、さ、る、ま、さ、さ、さ、さ、さ、さ、 松代 柳 花  
 花、さ、る、ま、さ、さ、さ、さ、さ、さ、 糸 三 主  
 花、さ、る、ま、さ、さ、さ、さ、さ、さ、 糸 若 蓋  
 花、さ、る、ま、さ、さ、さ、さ、さ、さ、 糸 基 礎  
 花、さ、る、ま、さ、さ、さ、さ、さ、さ、 糸 草 園  
 花、さ、る、ま、さ、さ、さ、さ、さ、さ、 糸 秋 紅



梅 楼

をのまふ門らるるをよハ梅のま 甲州春日 可成里

登こり川東津好くめのま 井三郎坂 梅夜

梅うまの梅よあぬまをま 公基 西有

うめうまぬ人のまあふく 浪明

梅のま折らぬ川にま 亡人 黒澤

思ひらふ梅より 上毛屋 友光

梅のま雪のほのま 信甲松坂 季彦

梅よ人柳よあ 上田 井く

意こし梅の中より 中津 友易

梅笑をとら 山本 新好

梅のまよ 山本 繪孫

笑梅の昔よ 山本 文那

松風のま 信濃 龜諫

白梅おち 信濃 林六

甘き 信濃代 本柳

ひ 信濃 杉羽



柳 春の光 春の光

春柳の夕の光をよみしる 伴勢三郎 陰波

春の柳の光をよみしる 信長 柳屋

春の柳の光をよみしる 仁人 陽夏

春の柳の光をよみしる 徳吉 雨津

春の柳の光をよみしる 東 海風

春の柳の光をよみしる 信中 雪六

春の柳の光をよみしる 一戸舎女 吟秋

春の柳の光をよみしる 春 翠雲

春の柳 春の光 春の光

春の柳の光をよみしる 三 玉屑

春の柳の光をよみしる 東 丈九

春の柳の光をよみしる 加賀 斗入

春の柳の光をよみしる 信成 春三

春の柳の光をよみしる 氏拜 里三

春の柳の光をよみしる 東 百心







花の根よりぬき下へぬ種あり春のる 花田 草園  
 春のゆのこしらぬ種はくしゆひを 早稲田 漢南  
 花の根よりぬき下へぬ種あり春のる 花田 草園  
 春のゆのこしらぬ種はくしゆひを 早稲田 漢南  
 花の根よりぬき下へぬ種あり春のる 花田 草園  
 春のゆのこしらぬ種はくしゆひを 早稲田 漢南

花の根よりぬき下へぬ種あり春のる

花の根よりぬき下へぬ種あり春のる 花田 草園  
 春のゆのこしらぬ種はくしゆひを 早稲田 漢南  
 花の根よりぬき下へぬ種あり春のる 花田 草園  
 春のゆのこしらぬ種はくしゆひを 早稲田 漢南

花の根よりぬき下へぬ種あり春のる

花の根よりぬき下へぬ種あり春のる 花田 草園  
 春のゆのこしらぬ種はくしゆひを 早稲田 漢南  
 花の根よりぬき下へぬ種あり春のる 花田 草園  
 春のゆのこしらぬ種はくしゆひを 早稲田 漢南











Handwritten cursive text on the right side of the page, including the characters 仙基 and 文基.

更なるあゝあゝ

Handwritten cursive text on the left side of the page, including the characters 文基, 文梁, 角原, and 小渡.

あゝあゝ

Handwritten cursive text on the right side of the page, including the characters 仙基, 文基, 文梁, 角原, 小渡, 南条, and 元化.



可人 上ノ坂 蘇泉  
 白氷 上ノ坂  
 徳月 上ノ坂  
 虎桐 上ノ坂  
 松翠 上ノ坂  
 徐雅 上ノ坂  
 如鏡 上ノ坂  
 大甲 上ノ坂  
 急耕 上ノ坂

上ノ坂十一

可人 上ノ坂 蘇泉  
 白氷 上ノ坂  
 徳月 上ノ坂  
 虎桐 上ノ坂  
 松翠 上ノ坂  
 徐雅 上ノ坂  
 如鏡 上ノ坂  
 大甲 上ノ坂  
 急耕 上ノ坂

可人 蘇泉

可人 上ノ坂 蘇泉  
 白氷 上ノ坂  
 徳月 上ノ坂  
 虎桐 上ノ坂  
 松翠 上ノ坂  
 徐雅 上ノ坂  
 如鏡 上ノ坂  
 大甲 上ノ坂  
 急耕 上ノ坂



巻 二

下系に當りたるものなり  
新島 碩海  
 此の事 *the same* なる  
三 川  
 當りたるものなり  
仙臺 其  
 市中に當りたるものなり  
塚別 塚別  
 此の事 *the same* なる  
西 西  
 此の事 *the same* なる  
西 西

上二六十二

お月お 百合

此江津に當りたるものなり  
行中後 方明  
 此の事 *the same* なる  
武八王子 善治  
 此の事 *the same* なる  
拜 梅門  
 此の事 *the same* なる  
下 子  
 此の事 *the same* なる  
三 介  
 此の事 *the same* なる  
中 徐牛







あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
礼入る夢のこゝろのこゝろ  
平定おほのこゝろのこゝろ

上毛坂中

文治

おハイビ

世南

信坂田

梅好

あまのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろ  
あまのこゝろのこゝろのこゝろ  
あまのこゝろのこゝろのこゝろ

白神

みん

お前田

女英校

あまのこゝろ

上毛坂中

あまのこゝろのこゝろのこゝろ  
あまのこゝろのこゝろのこゝろ  
あまのこゝろのこゝろのこゝろ

合衆

草津谷

八王子

草津

上毛坂中

和菜

信中坂中

水

あまのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろ  
あまのこゝろのこゝろのこゝろ  
あまのこゝろのこゝろのこゝろ

武蔵野

湖光

LINE

歌以

あまのこゝろ

岳格



夏の舟 夏の手

夏めくももる舟のこころをたのしむる  
我平左 出雲  
 川のほとりおぼろしくおぼろしく夏の手  
信林 柳枝  
 夕涼みの夜をわらわらとわらわら  
山崎 松丸  
 舟の影のたもとをたのしむる舟の影  
松平 空浪  
 舟の影のたもとをたのしむる舟の影  
和田 寛之  
 舟の影のたもとをたのしむる舟の影  
亡人 夢道  
 舟の影のたもとをたのしむる舟の影  
仙臺 白鳥

舟の影のたもとをたのしむる舟の影  
上毛坂下 東北  
 舟の影のたもとをたのしむる舟の影  
石川 常三

舟の影のたもとをたのしむる舟の影

舟の影のたもとをたのしむる舟の影  
亡人 松丸  
 舟の影のたもとをたのしむる舟の影  
石川 常三  
 舟の影のたもとをたのしむる舟の影  
八王 保宣  
 舟の影のたもとをたのしむる舟の影  
平坂 松丸  
 舟の影のたもとをたのしむる舟の影  
平坂 子泉











その戸をたたくは海にまかせ  
しるべきは海にまかせ  
あまの御魂をまかせ  
神の御魂をまかせ  
しるべきは海にまかせ  
秋の夜  
旅野の歌をまかせ  
其の歌をまかせ  
秋の夜  
しるべきは海にまかせ  
廿日丹

信ね代  
就島

書

上六十八

月夜にまかせ人の海にまかせ  
しるべきは海にまかせ  
あまの御魂をまかせ  
神の御魂をまかせ  
しるべきは海にまかせ  
秋の夜  
旅野の歌をまかせ  
其の歌をまかせ  
秋の夜  
しるべきは海にまかせ  
廿日丹

菊中

市川



山 は平川

秋の風をしのぎて

秋の風をしのぎて

秋の風をしのぎて

秋の風をしのぎて 冬

秋の風をしのぎて

秋の風をしのぎて

秋の風をしのぎて

秋の風をしのぎて 冬

上六十九

秋の風をしのぎて

秋の風をしのぎて

秋の風をしのぎて

秋の風をしのぎて 冬

秋の風をしのぎて

秋の風をしのぎて

秋の風をしのぎて 冬

秋の風をしのぎて

秋の風をしのぎて







まつ勢いのちから田舎のまのま 福田

このまのまのまのまのまのま

けしきもあつちのまのまのま ち度 義之

まのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのま ち板 福扇

まのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのま 行巻 教本

まのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのま 尺巻 ト二

上七上

くまのまのまのまのまのま

くまのまのまのまのまのま 上毛廿分り 素光

くまのまのまのまのまのまのま

くまのまのまのまのまのま 准水履 峰島

くまのまのまのまのまのまのま

くまのまのまのまのまのま 兼雨

くまのまのまのまのまのまのま

くまのまのまのまのまのま 鳥略

くまのまのまのまのまのまのま







与るしに程はあつた後、の申、 玉馬

石のりやうきふくよん、

与るしに程はあつた後、の申、 文下

美しき花の葉のふくよん、

与るしに程はあつた後、の申、 如毛

指のりやうきふくよん、

甲斐の根やうきふくよん、 岩本

与るしに程はあつた後、の申、

川流やうきふくよん、 白糸

山

与るしに程はあつた後、の申、

与るしに程はあつた後、の申、 上後 士貞

与るしに程はあつた後、の申、

与るしに程はあつた後、の申、 友志

与るしに程はあつた後、の申、

与るしに程はあつた後、の申、 友志

与るしに程はあつた後、の申、

与るしに程はあつた後、の申、 山阜

与るしに程はあつた後、の申、



Handwritten cursive text line 1

米山

Handwritten cursive text line 2

子規 子規啼血

Handwritten cursive text line 3

梅 梅香

Handwritten cursive text line 4

海 海客

Handwritten cursive text line 5

花 花六

Handwritten cursive text line 1

花 花六

Handwritten cursive text line 2

龜 龜

Handwritten cursive text line 3

白 白鳥

Handwritten cursive text line 4

三 三

Handwritten cursive text line 5



秋の風をうらむ海風——流のちも 里朝

秋の風をうらむ海風——流のちも 菊叟

秋の風をうらむ海風——流のちも 石牙

秋の風をうらむ海風——流のちも 石牙

秋の風をうらむ海風——流のちも 石牙

秋の風をうらむ海風——流のちも 石牙

秋の風をうらむ海風——流のちも 石牙

秋の風をうらむ海風——流のちも 石牙

秋の風をうらむ海風——流のちも 石牙

秋の風をうらむ海風——流のちも

秋の風をうらむ海風——流のちも

秋の風をうらむ海風——流のちも 秋暁

秋の風をうらむ海風——流のちも 一蕙

秋の風をうらむ海風——流のちも 梅谷

秋の風をうらむ海風——流のちも 布席

秋の風をうらむ海風——流のちも 梅史

秋の風をうらむ海風——流のちも 暮坂



羅ひまきし藤もきしむお月は夜  
 百露  
 昔の松よさらばはなれを惜し  
 仙臺  
 ねむりのくさくさと啼うる白月  
 桃木  
 うらねのさよふはなしむねは  
 五羽  
 早雲のしむに雲のさかすかのさ  
 龍二  
 雲のよきとくさくさのさかすかのさ  
 白砂  
 山々の色もさかすかのさかすかのさ  
 上野  
 松亭

追加

梅の香はゆめをさかすかのさかすかのさ  
 信上田  
 其丹  
 山々の色もさかすかのさかすかのさ  
 莫衣  
 日経半鐘をうり梅の下あり花  
 素明





蘇門山

仙譜

因中卷  
契大藏